

福島第一原発の廃炉・汚染水対策の状況 について

平成30年8月9日

内閣府原子力災害対策本部

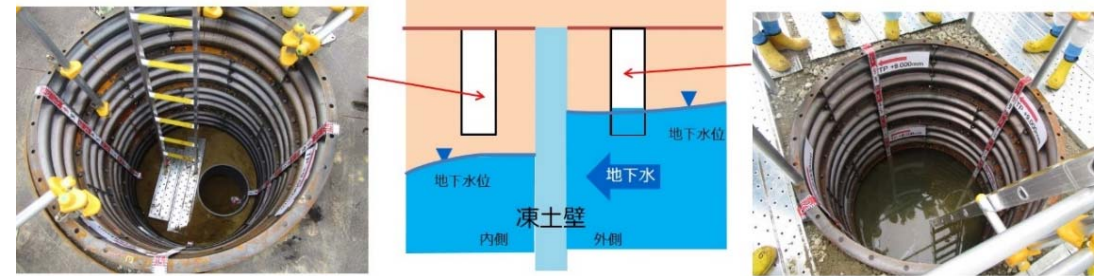
廃炉・汚染水対策チーム

汚染水対策の主な進捗

● サブドレン・凍土壁等の予防的・重層的な対策により、汚染水発生量は大幅に低減。

- 凍土壁による地下水の遮水効果が明確に認められ、サブドレン等の機能と併せ、地下水を安定的に制御し、建屋に地下水を近づけない水位管理システムが構築。(汚染水処理対策委員会 (3月7日開催) にて評価)

※凍土壁内外に同じ深さの穴を掘り、地下水の有無を確認



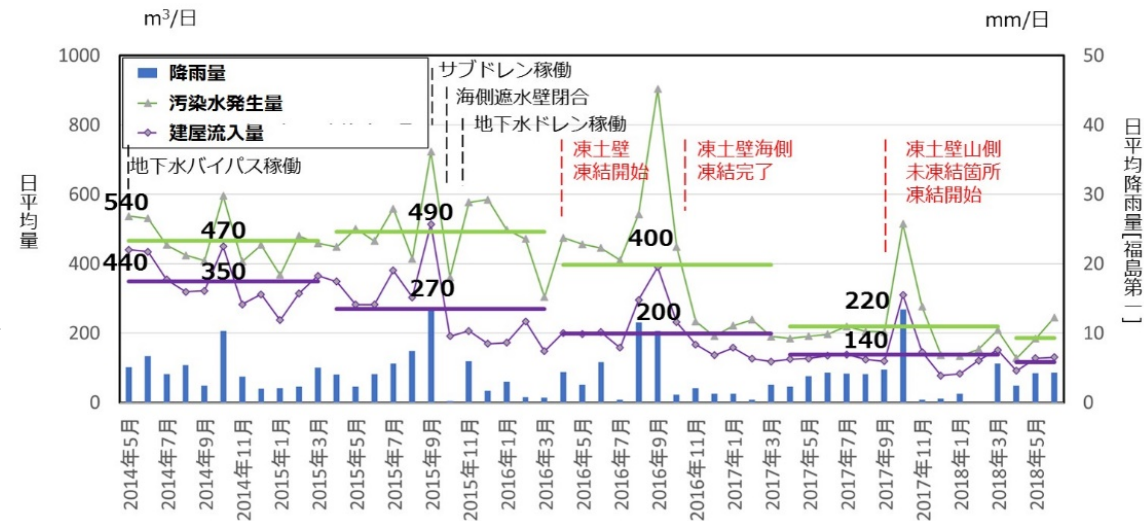
凍土壁内側 (底面には地下水なし)

凍土壁外側 (底面には地下水あり)

凍土壁内外における地下水位差の確認状況

- 汚染水発生量が、対策前の約540m³/日 (2014年5月) から約220m³/日 (2017年度平均) に低減。(渇水期では140 m³/日 (2017年12月~2018年2月平均))

- 今後も雨水対策等、重層的な対策に継続して取り組み、一層の汚染水発生量を低減を図る。



汚染水発生量と建屋流入量の低減状況

● 多核種除去設備等処理水の取扱いについて

- 多核種除去設備 (ALPS) 等により浄化処理された水 (ALPS処理水) の取扱いについては、風評被害などの社会的な観点も含めた総合的な議論を行うことが必要。
- このため、多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会において、風評被害に関する専門家や福島県など地元の御意見を丁寧に伺っているところ。
- 今後、8月30日 (富岡町)、31日 (郡山市、東京) に説明・公聴会を開催し、処分方法や処分した際の懸念等についてお伺いする予定。

● 使用済燃料プール内の燃料取り出しに向けた作業が進展。

<3号機>

- 2月にドーム屋根の設置を完了。
- 3月から燃料取扱機、クレーンの試運転を開始。今後、プール内のガレキ撤去作業、実機訓練を実施し、燃料取り出し開始は11月中の予定。



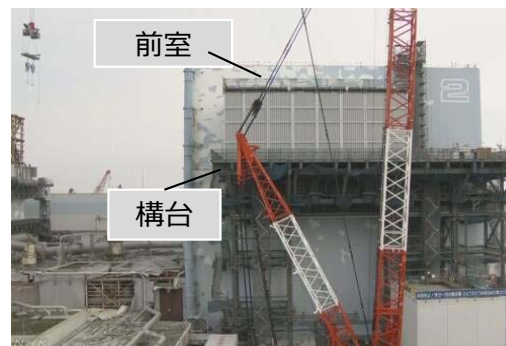
3号機原子炉建屋ドーム屋根の設置完了
(2018年2月23日)



クレーンと燃料取扱機

<1号機、2号機>

- 1号機は1月からガレキ撤去等を開始。
- 2号機は原子炉建屋上部解体に先立って、オペレーティングフロア内へアクセスするための開口部を設置。7月からオペレーティングフロア内の汚染状況調査等を開始。



2号機原子炉建屋西側の構台と前室



2号機オペフロ開口部設置完了
(2018年6月21日)

※オペフロ調査の結果を踏まえ、原子炉建屋上部解体等の作業計画、工程を立案。

● 燃料デブリ取り出しに向け、炉内状況の更なる把握に向けた計画を公表。

- 2018年度下期には、2号機において、原子炉格納容器底部の堆積物が動くかどうか調査を行う計画。
- 2019年度には、1号機及び2号機の格納容器内部調査を行い、格納容器底部の堆積物の少量採取・分析を行う計画。

※ 3号機についても、更なる調査の必要性を検討中



1号機建屋上部のガレキ撤去開始
(2018年1月22日)